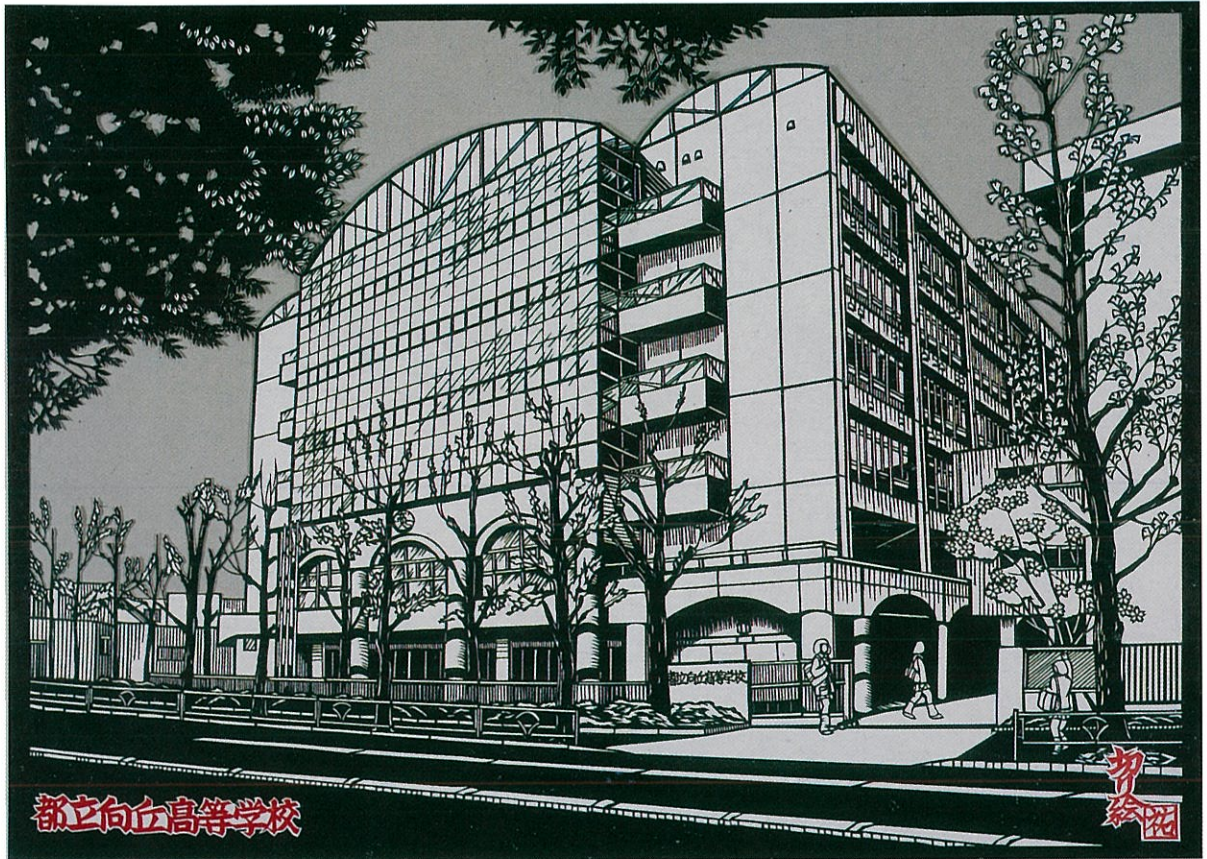


『小石川谷中本郷絵図』文久元年(1861年)

資料提供 株式会社 人文社



切り絵作家 稲葉祐吉氏

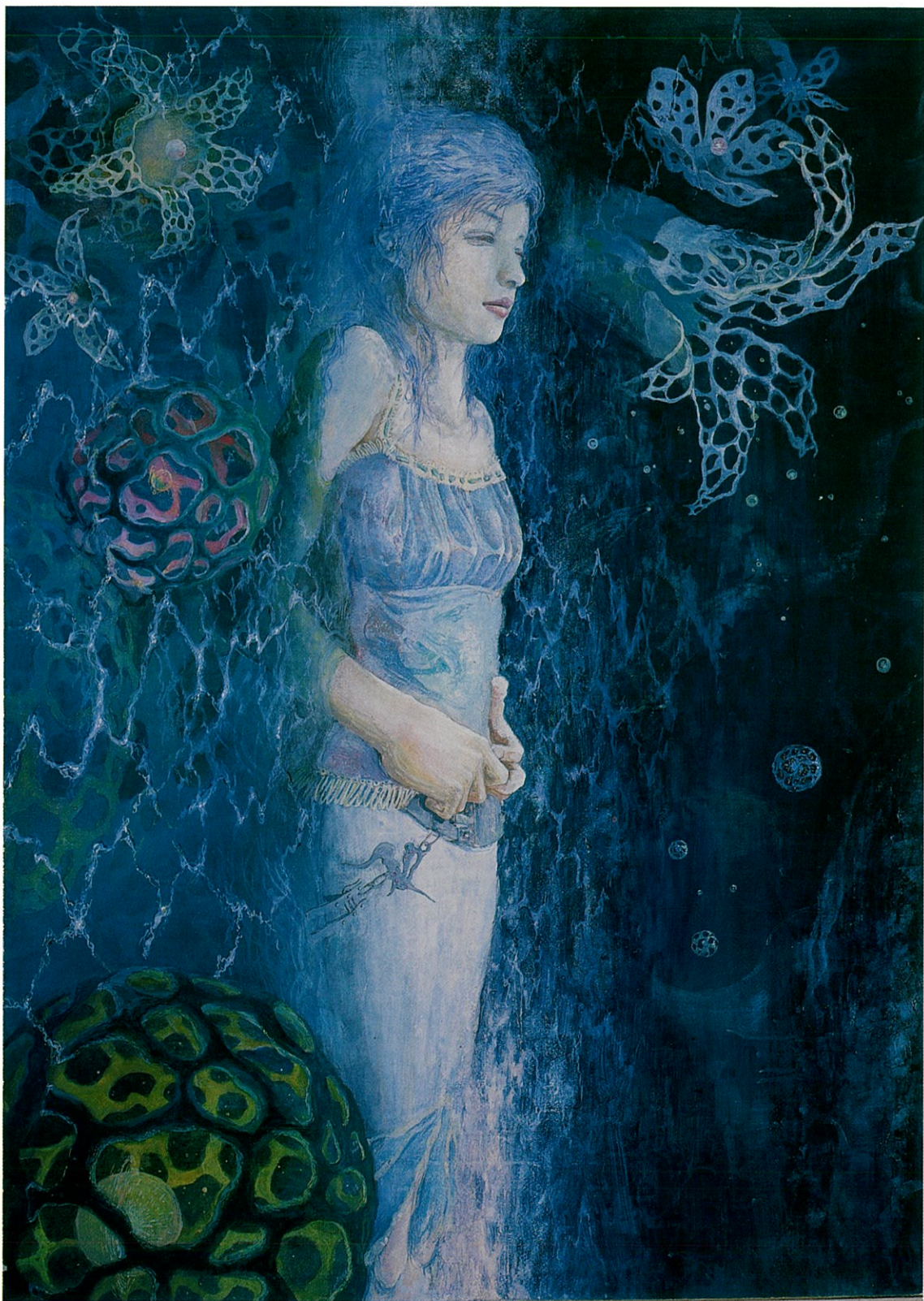
## 稲葉祐吉氏のプロフィール

昭和11年（1936年）、台東区に生まれる。昭和30年（1955年）3月、都立向丘高等学校卒業。写真撮影の技術を生かした職業を経て、切り絵作家としてスタートする。

平成元年に都電荒川線路（早稲田～三ノ輪橋）の停留所や沿線をテーマにした切り絵シリーズ30点を仕上げた。平成7年（1995年）に会津喜多方に

招かれ、3年近くかけて蔵の町の風景作品を精魂込めて制作し蔵の町シリーズを完成させた。作品は新聞やテレビでも紹介され、数々のテレビ局に出演した。平成17年放映のNHK『小さい旅』で都電荒川線が取り上げられ、稲葉氏も出演した。

晩年は都交通局、郵便局、警察署、消防署、JRなどの作品を贈呈し、多くの感謝状を受け、それらのイベントで切り絵を指導した。また、自宅のある足立区中川小学校の土曜授業や新宿区鶴巻小学校の“切り絵塾”でも子供達の指導にあたったが、平成18年2月に惜しまれながら急逝した。



# I. 校訓

自主 誠実 明朗

## II. 校歌・賛歌

### 校

J-118 藤 承夫 作詞  
堀内 敏三 作曲

やよいの はなは ちんまんと  
ぶんかの はるを うとうと  
こうが おかの まなびやに  
ぼうのひ かりみちわたる  
あーあせい しゅんの かんげーの  
あつまる ところわがぼこ

### 歌

1. 弥生の花は爛漫と  
文化の春を謳うとき  
向丘の学舎に  
希望のひかり 満ちわたる  
ああ青春の感激の  
あつまる ところ わが母校
2. 自由の空をかけりゆく  
平和の鳥ぞわが姿  
世界につづく友愛の  
道遙かなり わが前に  
ああ純情のほととほしる  
心の故郷 わが母校

### 賛

J-160 清野 シズ 作詞  
橋本 邦彦 作曲

1 ひにはえて  
2 そそりたつ  
いに おちう こな の は な さ く ら ぼ な  
く に の ぼ た か く あ と ま そ そ る  
つ ど い て む す け た し ふ じ の ゆ ま て  
あ ち かい は か た し ほ ほ も え て  
あ ひ し と み ゆ う べ る に あ お ぎ つ つ  
い き ぼ う の は る や ん ま さ や か に

### 歌

1. 陽に映えて  
句う木の花桜ばな  
国の秀高く笑そる  
貴なる姿 富士の雪  
あしたゆうべに仰ぎつつ  
い行き学ばむ まさやかに
2. そそり立つ  
鏡岩並木の下陰に  
集いてむすぶ友垣の  
誓は固し 頬燃えて  
瞭明るき若人の  
希望の春や 謳うらん

(定時制校歌)

同窓の絆・会報がたより

全日制同窓会会長 小川 力洋



母校の創立四十周年、五十周年、そして六十周年記念を迎えることに携わることができ、誠にめでたく歓喜に堪えません。卒業生総数一七、五八四名を全国に送り出しております。その中で住所判明者一万余名に会報を送付しております。年に一度のみのお届けですが、母校・我が会の活動記録等を発表・報告し、総会には参加できない会員さん方との「同窓の絆」を保とうと推進・継続してきております。

これらの費用は、決算書内訳にも提示しておりますが、突出したものとなっております。その財源はすべて新卒業生からの入会金によつて賄われているのが現状です。幸いにも現段階では、学校・生徒・保護者の皆様のご理解をいただきまして遂行することが可能となっております。各位に感謝申しあげる次第です。

この何年かにわたつて、新卒業生（入会歓迎会）・卒業二年目生・三年目生（新成人を祝う会）と銘打つて、総会（例年四月第三日曜日）に引き続いて懇親会を開いております。各年ごとに級単位の担当幹事さんを選出していただいております。その方々のクラスメートに葉書等でお呼び掛けを願っております。現在のところ全員が参加されるまでには至りませんので、対象者は無料で行っております。気易い同窓会と、認識いただきまして、今後一生涯への「母校愛」を培つて欲しいものと期待申し上げます。末永く繁栄あれと信じ、各位のご健勝を祈念いたします。

定時制の閉課程に寄せて

定時制同窓会会長 後藤 義一



都立向丘高校定時制課程は、昭和二十三年に誕生して以来、歴史と伝統を築いて六十年を迎えました。振り返つて昭和五十年代から高校全入が一般化し、時代の趨勢もあり定時制への生徒数が減少し始めました。現状では統合やむなしとも考えられましたが、平成二十年三月を以て母校が閉課程になるという事実を耳にし、定時制課程で学んだ卒業生の一人として淋しく残念でなりません。

私は、昭和三十五年本校に入學し三課程の中の商業科に籍を置き学業に励みました。顧みて、現在の学舎のような恵まれた教育環境には程遠く、本校の各教科の先生と裸電球の下で真剣に学んだ記憶が懐かしく、若かったころのクラス仲間の笑顔が甦ってきます。狭く薄暗いグラウンドで汗を流した体育の時間など頭を過ぎります。また、四年時の四国・関西への修学旅行は終生忘れられなく最も楽しく険に焼き付いて離れません。

思えば、職場の温かい理解と支援があったからこそ、四年間で培った経験から苦しさは耐えることを学びました。ややもすれば挫折しそうな友を元気づけ助け合ったのは、クラスの仲間にも他ならない。卒業式では皆で感激を新たにしました。

この機に臨み、閉課程には感慨深く淋しさが募ります。定時制六十年の輝かしい歩みと歴史を育んだ重みを認識し、終始励まされご指導いただいた恩師と諸先輩に感謝すると共にご多幸を祈念し、更に卒業生諸君の努力を称え、定時制の閉課程に寄せる辞と致します。

六十周年を記念し学ぶ

全日制PTA会長 佐藤 有恒



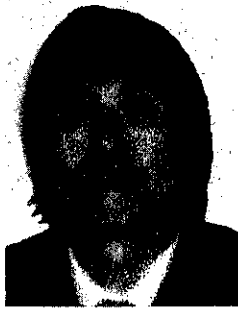
都立向丘高校六十周年を心からお祝いいたします。  
昭和二十三年四月、まさに新しい時代の幕開けに国中が沸き立つ中で新制G A O K Aは産声をあげました。その前年に新憲法と教育基本法が公布され、二千万人もの尊い生命を奪った戦争を二度とくり返すまいとの誓いのもと、自由と平和、基本的人権を尊ぶ新たな国づくりの息吹の中で希望のスタートが切られたのです。以来、「自主 誠実 明朗」を校訓とし、自由な校風の上に自主自立の精神に富んだ人づくり、常に最善の努力をする生徒像を目指した営みが、営々と六十年にわたり歴史を刻んできました。

「温故知新」。生徒さんにとつては、六十周年の記念すべき年に遭遇したチャンスを生かし、自分なりの思いで、過去に学び、現在、未来の自分を、学校生活の目標を見つめ直してみたいかがでしよう。

自由な校風がG A O K Aの伝統であり、その魅力で門を叩いた方も多いことでしょう。この校風を今の時代に即して大事に育ててほしいものです。自由と責任は対をなすもの。自らを律する責任感に裏打ちされた自由の中にこそ自主自立の精神が培われ、考えの違いや個性の違いを認め合う豊かな心が育っていくものです。そして、自らを永遠の「発展途上人」として自分を琢き鍛え続ける人となつてほしい。何事にも疑問を持ち、自らの頭で考え行動する勇氣と積極性をもち続け、学び続けることの楽しさを学校生活の中で見つけ出してほしいものです。

ありがとうございます

定時制PTA会長 筒井 良



向丘高等学校定時課程が時代の流れとはいえ、平成十九年度末をもって閉課程となるのは非常に残念です。今、六十年間にわたる素晴らしい歴史が幕を閉じます。

定時制高校も、社会の変化と共に「勤労青少年のための教育」から「多様な特性をもつ生徒の教育」へと変化したと聞きます。保護者としては、年々、先生・生徒が少なくなり学校の活気がなくなりはないかと少し心配しましたが、生徒たちの顔を見ると取越し苦労だった様です。向丘高等学校定時制では、時代や社会に対応し、創造力と自発性を発揮する生徒一人一人の自己実現を積極的に支援していただき、ありがとうございます。生徒たちも「向丘に学べてよかった」と実感できたと思います。

また、校長先生をはじめ諸先生方には授業はもとより、部活に、講習に、進路指導などにご指導いただきありがとうございました。生徒ともども感謝申し上げます。

最後になりましたが、本校に関わつてこられました、歴代の校長先生並びに教職員の皆様、PTA・同窓会の皆様、本当にご苦勞様でした。

そして、これまでに本課程を卒業された数多くの皆様の皆様のご発展をお祈りいたします。

創立六十周年を祝して

第十五代校長 北村 正生



発展を期して

第十六代校長 石井 隆夫



創立六十周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。本校は創立以来、「自主・誠実・明朗」を校訓に、教職員と生徒との深い信頼関係を築きながら、個性を尊重した闊達な雰囲気の中、良き校風を養い、伝統を培いながら地域に根ざした学校として逞しく成長してきました。平成十年十月、私の在職中に新校舎落成記念・創立五十周年記念の式典を多くのご来賓のご臨席を賜り、盛大に挙行できたことを大変光栄に存じております。

私の在職中には二十一世紀が幕を開け、様々な改革がなされ始めた時で、学校の個性化、特色ある教育が一層推進され、学校運営連絡協議会や企画調整会議の設置、学校経営方針の策定等々が導入されました。入学選抜においても改善が重ねられ学区制が廃止され、本郷通りに聳え立つモダンな校舎と、通学の利便さ、新標準服の人気なども合わせ、高い入試倍率が続きました。ハード（優れた施設）に見合うソフト（教育実践）の充実を目指して、コンピュータを活用した授業や習熟度別授業、少人数制授業、多様な選択講座、早期からの進路指導の取り組みなど、生徒の夢の実現を目指して教職員が一丸となって教育活動に力を注ぎました。

「がおか生」は明るく素直で、すばらしい力を持っています。これからも良き校風と伝統を継承し、「卒業してよかった」と思える学校であり続け、卒業生の皆さんが新しい時代に大きく飛躍し、日本で、また世界で活躍されることを祈念してお祝いの言葉といたします。

創立六十周年おめでとうございます。私が勤務したのは平成十四年よりの四年間でした。「向丘高校（文京区）の応募者（推薦、一般入試の合計）の伸びはめざましい……」。平成十五年二月十三日の朝日新聞東京版はこのように報じています。

冷暖房完備の快適な六階建ての校舎、習熟度別授業、少人数授業の実施や豊富な選択講座などの充実した教育内容が中学生や保護者から一定の評価を得ることができたと思っております。これらを受けて私は教職員に学校の目標を「好環境の中で、伸び伸びと自分を生かし自分で判断し表現することができる生徒を育成する。」と話したことを覚えております。

生徒の能力と個性を伸ばし、これらを分かち合い補い合い、豊かな想像力と人間形成ができる学校、生徒の豊かな人間性を育み生命を尊重する心、他者を思いやる心、道義心そして正義感を醸成する心の教育が今後ますます重要視されます。

向丘高校の目指す人づくりは、長い歴史と伝統の中で、特に自主、自立の精神を基調とした豊かな人間性の育成が根底に脈々と受け継がれています。

向丘高校の強みは、何と言っても教職員が一致してことに当たるといふことにあります。理想を見据えた力強い指導が行われ、未来を創造する東京都立向丘高校の発展に、大いに期待しております。

## 一瞬の出会い

第十二代校長 新城 昇



## 創立六十周年に寄せて

第十三代校長 池永 武昭



少子化が進行し、多くの都立高校が、統合され、多様化されるなかで生き残って進化する向丘高校の姿を、今日見られることは、歴代の校長先生、教職員の皆様の努力の賜物と、心から御礼を申しあげたい。

私は、学校訪問を受けたことについて語っておきたい。それは、当時、インドの外務大臣であった、ナラシマ・ラオ氏の来校であった。都教委を通じて、CAI(コンピュータ・エディット・インストラクション)教育の先進校であった本校が指名されて、大使館の皆様とともに来校された。山口教頭先生の案内で「向丘高校の教育」とコンピュータ授業を見学されたあと、校長室でしばしの歓談となった。ナラシマ・ラオ氏は意外にも終始、不機嫌であった。ぼつりと言った言葉が、通訳に翻訳されて「パソコンはもつと機能的に使われなければならない」と言う、意外な発言であった。私は不覚にも、その言葉の背景について、質問しなかった。それどころか、「遅れているインドの教育では、CAIの優れた学習効果は理解できなかったのだろう」とさえ思ってしまった。無知と言うものは、恐ろしいものだ。その後、インドでは、ガンジー首相が暗殺され、政界引退を表明していたナラシマ氏が突如後継首班に浮上したのだ。しばらくして、「インドはナラシマ首相主導で、本格的市場開放を始めた」という情報ながれた。教育の世界では、米國に來たインド留学生の頭腦が、IT産業に認められ、ついにテキサスインスツルメントやモトローラがインド(バンガロール市)に研究所を直接設置するようになる。能力ある子弟を大学教育まで無料で支援し、海外留学までさせる。その教育制度の改革。これらの布石に、ナラシマ氏は深く関わっていたのだ。

インド経済は急速に立ち上がり、世界の注目を浴びている。インドはパキスタンとともに、原爆の開発をした。非核三原則を進める日本は、経済交流を制限した。しかし、ご存知のように日本のスズキ自動車は、インド全体の50%を占める現地生産までに成功させている。

ナラシマ氏に返ろう。インドの勃興は、貧富の差を拡大した。御台家の汚職も肥大した。四年の政権末期にナラシマ氏は総選挙に大敗し、不正を指弾され、引退した。(後に不起訴)

日本では大臣の自殺。政治とは恐ろしい。だが確実に世界は「誠実」な方向に動いている。あらためてナラシマ氏のご冥福を祈るしだいである。

東京都立向丘高等学校が創立六十周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

高校の周年行事は、ゴールのない駅伝競走のようなもので、六十周年は、通過点であり、創立百周年を目指して、先輩から後輩へと良き校風・伝統を継いで引き継いで下さい。

私が勤務した三年間は、校舎の改築が行われましたが、東京都をはじめ、関係各位の教育に対するご理解とご援助には頭の下がる思いでした。特に仮設校舎や体育施設の借用等、教職員・生徒・保護者の皆様には多大なご苦労をおかけいたしました。今、緑の多い本郷通りに燦然と輝く校舎を見るたびに、当時のことを振り返り感慨無量でございます。授業の方では、情報化時代の到来を逸早く察知し、コンピュータでのCAI授業、インターネットを導入し、ネットワーク化するなど教育内容の充実、発展が見られることは、ご同慶の至りです。昨今、教育改革が話題となっておりますが、「不易なもの」という言葉があります。どんなに世の中が変わろうとも、人間として為さなくてはならないものは不変です。「常に相手の立場に立つて、物事を考え、判断し、行動する」心優しい思いやりのある人間に育って欲しいものです。親御さんが「向丘高校に子供を学ばせて良かった」、子供が「向丘高校を卒業して良かった」といえる高校づくりを期待しています。

向丘高等学校の益々のご発展と皆々様のご健勝を、ご祈念申し上げお祝いの言葉といたします。



## 創立六十周年及び定時制課程の 閉課程に寄せて

東京都教育委員会教育長

中村 正彦



東京都立向丘高等学校は、昭和二十三年四月、東京都立本郷女子商業学校と東京都立向丘高等女学校とを統合し、東京都立向丘本郷新制高等学校として開校しました。同年、定時制課程の設置認可を受け、昭和二十五年一月、東京都立向丘高等学校と校名を変更し現在に至っております。

本校は、「自主・誠実・明朗」を校訓に、全日制課程では、自主・自立の精神を育て、自ら学ぶ意欲を高めるために、少人数授業、習熟度別授業や他校に先駆けたコンピュータを活用した授業の実施など、生徒一人一人の能力・適性に応じた授業の充実を進めてきました。さらに、職業ガイダンスやインターンシップ等とおしたキャリア教育も推進し、生徒の様々な進路希望に対応してきました。

また、定時制課程では、基礎学力を充実させ、社会人として広い視野に立ち、社会の変化に自ら対応する能力を高めるため、生徒の到達度に応じた学習指導や補習など基礎・基本を重視した教育活動を行い、計画的に個別面接・相談を実施するなど、生徒一人一人に対して、温かく、きめ細かい指導に取り組んできました。

創立以来、時代や社会の変化に対応した教育実践をとおり、多様な青少年の自己実現を支援する役割を担い、全日制課程では、二万一千四百有余名、定時制課程では、四千四百有余名の生徒が本校を卒業し、多くの有為な人材を社会に輩出してきました。

本校が、創立六十周年を迎えられたことは、今日まで、多くの諸先輩方が努力し積み上げた歴史を振り返る節目でもあり、同時に新たなスタートでもあります。在校生の皆さんが、このすばらしい伝統と校風を次代に継承・発展させていくことを願っております。

また、東京都立向丘高等学校定時制課程は、東京都教育委員会の「都立高校改革推進計画・新たな実施計画」に基づき、他の都立高等学校八校の定時制課程とともに東京都立一橋高等学校昼夜間定時制課程として、新しい歴史を築いていくことになりました。本校定時制課程が六十年間築き上げた伝統と教育実践が、新しい学校の発展の礎となることを確信しております。

今後の本校の教育に対する変わらぬ御理解、御支援をお願い申し上げますとともに、本校定時制課程の発展のために御尽力いただきました歴代の校長先生並びに教職員、保護者、同窓生、関係者の皆様に、心から敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

創立六十周年並びに定時制閉課程  
に寄せて

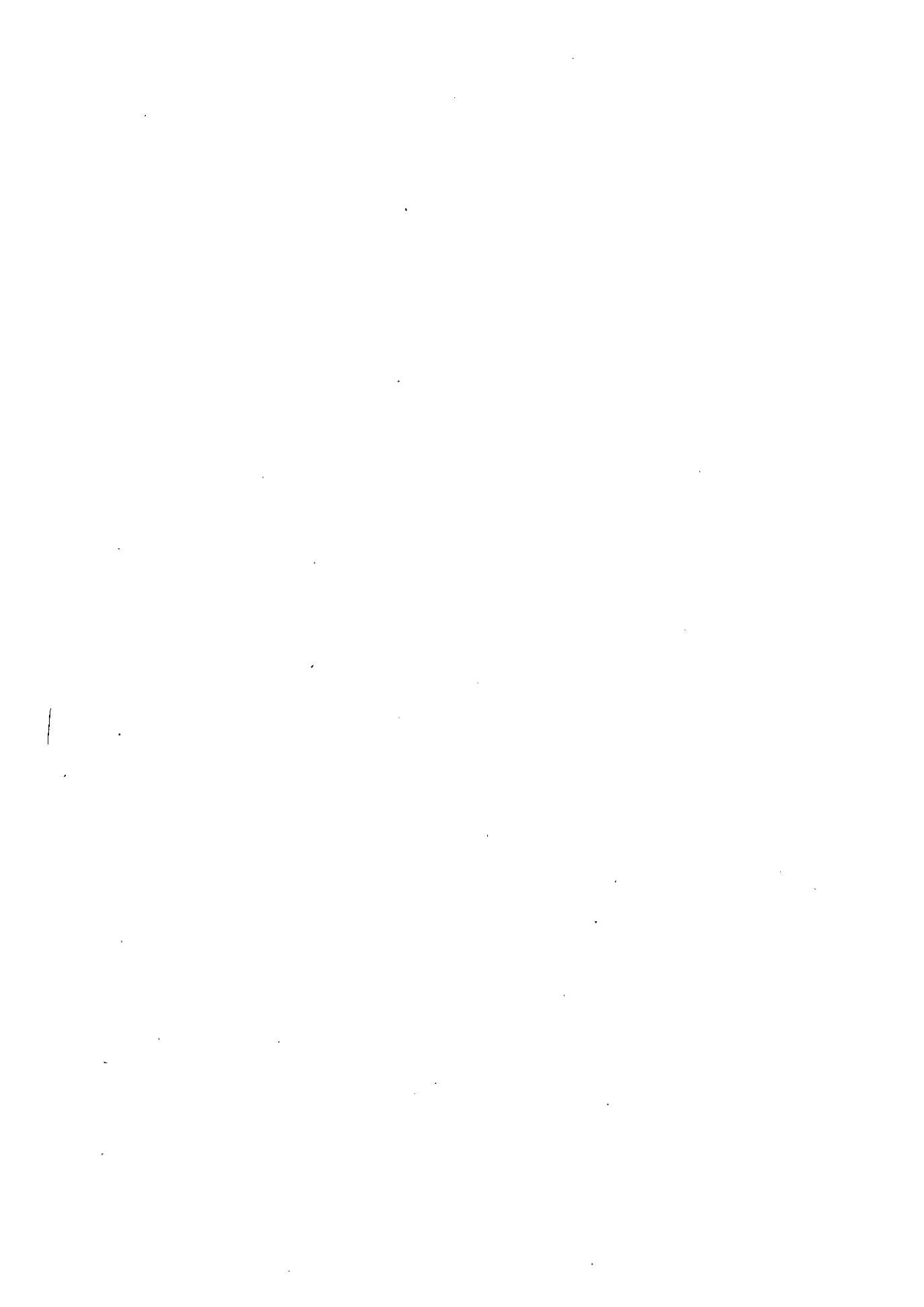
校長 戸谷 賢司



東京都立向丘高等学校は、東京都立向丘高等女学校と東京都立本郷女子商業学校とが統合され、昭和二十三年に東京都立向丘本郷新制高等学校として開校したことに始まります。全日制、定時制、両課程とも六十年の歳月が流れ、無事遷厝を迎えることができました。このことは偏りに、これまでの歴代校長をはじめとする教職員、同窓生の皆様が本校の教育の充実・発展に尽力され、歴史と伝統を着実に築き上げてきた賜物であり、さらには東京都教育委員会、保護者、地域の皆様、全ての関係者の暖かなご支援があったからこそであります。この紙面をお借りして感謝を申し上げるとともに大切な節目を迎えた喜びを共に分かち合いたいと存じます。

しかし惜しむらくは、奇しくもこの喜ばしい節目を最後に、定時制課程はその使命を終えることになりました。顧みると、最盛期には十六学級規模をほこり、在籍生徒が約七百名に及ぶこともあり、勉強意欲に燃えた優秀な勤労青少年が集まっていました。時代とともに定時制教育の果たす役割りが変化するなかで定時制課程最後の生徒は一六名となりましたが、これまで巣立っていった四千余名の卒業生とともに有終の美を飾り、以後は新たなタイプの定時制高校として開校している一橋高等学校にその使命を託し、本校定時制課程を閉じさせていただきます。本校定時制教育に係わった全ての方々に衷心よりお礼を申し上げます。

さて、本校の歩みを振り返ると、向丘本郷新制高校という校名からもわかるように創設期の向丘高女と本郷商業との統合にまつわる問題、発展・充実期の校地の拡張や繰り返し行われてきた校舎等の増改築など、誕生時から今日に至るまで順風満帆ではなかったことがわかります。特に、初代校長阿部篤三氏がひと月あまりで視学官に転出し、その後文京区長の懇請により既に社会の一線を退いていた東京大学名誉教授の宇野哲人氏が七十歳で第二代校長に就任しますが、このことから新たな学校を創設することがどれほど大変であったか伺い知ることができません。幸い、著名な学者であった宇野校長の確かな識見と高潔な人格により、円満に両校の精神を融合させ、校名も向丘高等学校に改称したと二十周年記念誌に記されています。また、このとき、わが向丘高校の校訓「自主・誠実・明朗」を定められ、以後この校訓は建学の精神として脈々として受け継がれ、本校の歴史と伝統が築かれていく上で精神的支柱として重要な役割を果たしてきました。先人が築き上げてきた校風を大切に引き継ぐことは、私たちにとって当然の役目です。それに加え、この創立六十周年という大きな節目を新たな出発点とし、目指す中堅進学校を実現すべく教職員、生徒が一丸となって知の学び舎へと飛躍することが私たちに課せられた大きな使命と考えています。つきましては、関係各位の格段のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



都立向丘高等学校  
創立六十周年記念誌  
定時制閉課程記念誌

# 目

# 次

口絵一 故稲葉祐吉氏（昭和三十年卒）作品  
口絵二 狩野大寿君（平成十六年卒）作品

## 緒言

学校長挨拶 ..... 1  
東京都教育委員会挨拶 ..... 2  
祝辞 ..... 3

## 第一部 向丘高校の歴史と回顧

向丘五十年間のあゆみ ..... 8  
向丘この十年のあゆみ ..... 14  
六十周年記念座談会 ..... 17  
思い出の記 ..... 26

## 第二部 向丘高校の現況

向丘高校の教育目標 ..... 30  
学習指導 ..... 31  
進路指導 ..... 35  
生徒指導・学校行事 ..... 36  
生徒会活動・部活動 ..... 39  
学校説明会・図書館 ..... 44

## 第三部 定時制

本校の教育目標と閉課程にあたって ..... 46  
定時制沿革 ..... 47  
教育課程と授業風景 ..... 51  
給食 ..... 55  
部活動 ..... 58  
生徒会活動 ..... 61  
校外活動 ..... 64  
図書館 ..... 67  
回想記 ..... 68

## 第四部 資料編

1 教育課程 ..... 82  
2 校務運営機構図 ..... 84  
3 保健室から見た生徒の健康 ..... 84  
4 今春の進路状況 ..... 85  
5 出身中学校一覧 ..... 86  
6 卒業生数一覧 ..... 87  
7 現教職員一覧 ..... 88  
8 教職員在勤表 ..... 90  
口絵解説・編集後記 ..... 100